

いの流水俳壇

松尾 満津於 選

寒鮎が来るゾー。

「当季雑詠」

川村 愛

春立ちぬかき餅を切る祖父の手よ

(評) 「昔はあまりお菓子も

ままならなかつた。大きな菜

切包丁で丁寧に一枚一枚心を

込めて、かき餅を切つて、

祖父、たまたま切り屑がると、

火鉢で焙つて食べた素朴な味

と添え書きがあつたが、この

句はまさしく幼い頃の郷愁で
あり、古きよき時代のしつか
りした親子関係の絆を感じ
る句である。

弘瀬 うき子

初漁やおいでましたか鰯起し

(評) 鰯は大海に棲み、長ず

るに従つて名が変わる所謂出

世魚として、歳暮の贈り物な

どにされる魚である。冬季は

特に油が乗つて味がよいとい

われている「鰯越し」は鰯の

漁期(12月～1月)の頃にな

る雷のことをいう。「おいで

ましたか」は如何にも海の男

らしい言葉の表現。「雷なん

か気にしては居ないぞ」とい

う心構え。漁は大漁、今年も

松岡 きよ子

龍降りて節分祭にうねり舞う

(評) 節分は四季それぞれに

季節を分ける日を指すが、特

に立春の前日は古くから、一

年の境の日として考えられ、

豊年祭りや、無病息災を祈願

して種々の祭や行事が催される。

龍のうねり舞つのは、選者は「長

崎おくんち」の他は知らないが、

長い龍の胴体に棒を差して、

數十人で胴体を上下にうねり

狂わせながら街中をねり歩く

様は、まことに豪快である。

孫来れば一日短かし炬燵かな

(評) 素直にやわらかく詠んで、

誰でも理解でき、心に響く味

わいをもつた句である。「孫

くれば」は通常は別居の状態で、

時々祖母の許に話し伽に来て

くれるのであろう、孫なれば

こそ心置きなく話が出来る。

中七の「一日短かし」の言葉

に説得性があり、表現の技巧

など何も要らない。

春の雨今ある命濡らしけり

薄氷の木の葉模様になつていし

春の雨今ある命濡らしけり

川上 こよね

小島 良

吉良 芙美

津田 久美

川村 千団子

大川 節弥

井上 邦子

川村 喬子

渡辺 万利子

中屋 桜子

松尾 满津於

次題 「当季雑詠」 五句

締切 每月十五日

空すけて帰雁の列を正しけり

春光を回して弾む車椅子

刈谷 志津

筒井 眉躬

清流は流れを止めず春を呼ぶ

(評) 冬枯れの渓流、春の出

水を得て清流となる、冬の落

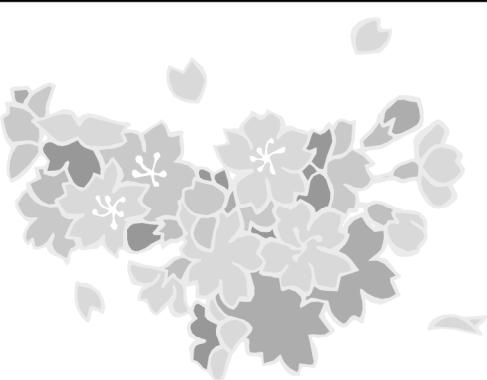
葉や塵芥の堰を流し、流れに

淀みがなくなる「流れを止めず」

春光を回して弾む車椅子

刈谷 志津

筒井 眉躬



中野 好子

は滔々とまではいわれなくとも、
流量の増を意味している。流

針仕事できる幸せ針供養

間 浩太

それに沿つて草が青み花が咲く、
その先の春を感じとつている
のである。

石垣を曲れば陽だまり路の薹

間 浩太

は滔々とまではいわれなくとも、
流量の増を意味している。流

針仕事できる幸せ針供養

間 浩太

れに沿つて草が青み花が咲く、
その先の春を感じとつている
のである。

石垣を曲れば陽だまり路の薹

間 浩太

は滔々とまではいわれなくとも、
流量の増を意味している。流

針仕事できる幸せ針供養

間 浩太